

# 宮城県ものづくり中小企業生産性向上設備導入補助金交付要綱

## (趣旨)

第1 県は、生産性向上による新規受注の獲得、高付加価値市場への参入の推進を図るため、ものづくり中小企業が、宮城県内において生産性向上のための設備を導入する場合に要する経費について、予算の範囲内で宮城県ものづくり中小企業生産性向上設備導入補助金(以下「補助金」という。)を交付するものとし、その交付等に関しては、補助金等交付規則(昭和51年宮城県規則第36号。以下「規則」という。)に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

## (補助事業者)

第2 この要綱において、補助金の交付対象者(以下「補助事業者」という。)とは、次の各号のいずれかに掲げる者をいう。

- (1) 中小企業基本法(昭和38年法律第154号)第2条第1項に規定する中小企業者又は同条第5項に規定する小規模企業者(以下「中小企業者等」という。)のうち、次に掲げる要件を全て満たす者
  - ア 宮城県内に本店又は主たる事業所を有する者
  - イ 製造業を主たる事業として営む者で、宮城県内に生産拠点を有する者(日本標準産業分類(令和5年総務省告示第405号)に規定する「食料品製造業」及び「飲料・たばこ・飼料製造業」に係る事業者を除く。)
  - ウ 次に掲げる要件のいずれにも該当しない者
    - (ア) 同一の大企業からの出資が、資本金の2分の1以上を占めている中小企業者等
    - (イ) 大企業からの出資が、資本金の3分の2以上を占めている中小企業者等
    - (ウ) 大企業の役員又は職員を兼ねている者が、役員総数の2分の1を占めている中小企業者等
- (2) 宮城県内におけるものづくり産業の振興を図る事業実施主体として知事が適当と認める者

## (補助金の交付対象等)

第3 この要綱における補助金の交付対象となる事業(以下「補助事業」という。)は、別表1に定める補助対象設備を新設し、又は更新することにより、生産性向上を図る事業とする。

2 補助金の交付対象となる経費(以下「補助対象経費」という。)は、別表2のとおりとする。

## (補助限度額及び補助率)

第4 補助事業者に交付する補助限度額及び補助率は、別表3のとおりとする。

2 前項の規定により算出された金額に千円未満の端数がある場合は、これを切り捨てるものとする。

## (交付の申請)

第5 規則第3条第1項の規定による補助金交付申請書の様式は、様式第1号によるものとし、その提出期限は、知事が別に定める日とする。

2 規則第3条第2項の規定により補助金交付申請書に添付しなければならない書類は、別表4のとおりとする。

3 次の各号のいずれかに該当する補助事業者は、交付申請をすることができない。

- (1) 補助金の交付対象となる事業について、他の補助金を受ける者
  - (2) 地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の4（一般競争入札の参加者の資格）の規定に該当する者
  - (3) 交付申請時に宮城県の物品調達等に係る競争入札の参加資格制限要領（令和2年4月1日施行）に掲げる資格制限の要件に該当する者
  - (4) 暴力団排除条例（平成22年宮城県条例第67号）に規定する暴力団又は暴力団員等
  - (5) 県税に未納がある者
- 4 知事は、前項第4号に規定する暴力団又は暴力団員等に関する事項について、県警本部長宛て照会することができる。

（申請の際の消費税及び地方消費税）

第6 補助金の交付を申請しようとする補助事業者は、規則第3条第1項の申請に当たり、当該補助金に係る消費税及び地方消費税仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税に相当する額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額と当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額との合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下「消費税等仕入控除税額」という。）を減額して交付申請しなければならない。ただし、申請時において当該消費税等仕入控除税額が明らかでないものについては、この限りでない。

（交付の決定）

- 第7 知事は、規則第3条第1項の申請を受けたときは、審査し、補助金を交付すべきものと認めるときは、補助金の交付決定を行うものとする。
- 2 知事は、前項による交付の決定を行うに当たっては、第6の規定により補助金に係る消費税等仕入控除税額について減額して交付申請がなされたものについては、これを審査し、適当と認めたときは、当該消費税等仕入控除税額を減額するものとする。
  - 3 知事は、第6ただし書による交付の申請がなされたものについては、補助金に係る消費税等仕入控除税額について、補助金の額の確定において減額を行うこととし、その旨の条件を付して交付決定を行うものとする。

（交付の条件）

第8 規則第5条の規定により付する条件は、次のとおりとする。

- (1) 補助事業の内容の変更又は補助事業に要する経費の配分の変更をする場合においては、様式第2号により知事の承認を受けること。ただし、次に掲げる変更についてはこの限りでない。
  - ア 補助事業に要する経費の10%以内の減少の変更である場合
  - イ 補助事業に要する経費の区分相互間の20%以内の変更である場合
  - ウ 補助目的に変更をもたらさない事業計画の細部の変更である場合
- (2) 補助事業を中止し、又は廃止する場合においては、様式第3号により知事の承認を受けること。
- (3) 補助事業が予定の期間内に完了しない場合又は補助事業の遂行が困難となった場合においては、様式第4号により速やかに知事に報告し、その指示を受けること。

(補助事業の経理等)

第9 補助事業者は、補助事業の経費については、帳簿及び全ての証拠書類を備え、他の経理と明確に区分して経理し、常にその収支の状況を明らかにしておかなければならない。

2 補助事業者は、前項の帳簿及び証拠書類を補助事業の完了（廃止の承認を受けた場合を含む。）の日の属する年度の終了後5年間、知事の要求があったときは、いつでも閲覧に供せるよう保存しておかなければならない。

(交付決定前着手)

第10 補助事業の着手は、原則として規則第6条の規定による補助金の交付決定後に行うものとする。ただし、やむを得ない事由により、当該交付決定前に事業に着手する必要があるときは、あらかじめ様式第5号による交付決定前着手届を知事に提出しなければならない。

(状況報告等)

第11 規則第10条の報告について、知事が補助事業の遂行状況の報告を求めた場合、補助事業者は、知事が別に指定する期日までに、様式第6号による遂行状況報告書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、前項の報告のほか、必要と認めるときは、補助事業者から補助事業の遂行状況について報告を求め、又は現地調査を行い、補助金の使用状況を調査することができる。

(実績報告)

第12 規則第12条第1項の補助事業実績報告書は、様式第7号によるものとする。

2 規則第12条第1項の規定により補助事業実績報告書に添付しなければならない書類は、別表5のとおりとする。

3 実績報告書の提出期限は、補助事業の完了若しくは廃止承認の日から1か月を経過した日又は知事が別に定める日のいずれか早い日までとする。

(実績報告に係る消費税及び地方消費税)

第13 補助事業者は、規則第12条第1項の規定による実績報告を行うに当たって、当該補助金に係る消費税等仕入控除税額が明らかになった場合には、当該消費税等仕入控除税額を減額して報告しなければならない。

(補助金の交付方法)

第14 補助金は、規則第13条に規定する補助金の額の確定後に交付するものとする。ただし、知事は、補助事業の遂行上必要と認めるときは、規則第15条ただし書の規定により概算払により交付することができる。

2 前項ただし書による補助金の概算払で補助金の交付を受けようとする補助事業者は、様式第8号による補助金概算払請求書を知事に提出しなければならない。

(消費税及び地方消費税仕入控除税額の確定に伴う補助金の返還)

第15 補助事業者は、補助事業完了後に消費税及び地方消費税の申告により当該消費税等仕入控除税額が確定した場合には、様式第9号により速やかに知事に報告するとともに、知事の返還命令を受けてこれを

返還しなければならない。

(財産の管理及び処分等)

- 第16 補助事業者は、補助事業が完了した後も補助事業により取得し、又は効用の増加した機械等（以下「取得財産等」という。）を、善良な管理者の注意をもって管理するとともに、補助金交付の目的に従って効果的に運用しなければならない。
- 2 規則第21条第2号及び第3号の規定に基づき知事が定める処分を制限する取得財産等は、取得価格又は効用の増加価格が50万円以上の機械、重要な器具その他の財産とする。
- 3 補助事業者は、補助金の交付の目的及び減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）に定める耐用年数を勘案して、別表6で定める期間が経過するまでに、取得財産等を取り壊し、若しくは廃棄し、他の用途に使用し、他の者に貸し付け、若しくは譲り渡し、他の物件と交換し、又は債務の担保に供するときは、様式第10号により知事に申請し、あらかじめ承認を受けなければならない。
- 4 知事は、規則第21条の規定に基づいて取得財産等の処分の承認をした場合において、当該承認を受けた補助事業者が当該承認に係る処分により収入があったと認めたときは、当該補助事業者に対して、その収入に相当する額の全部又は一部を県に納付させることができるものとする。

(成果報告)

- 第17 補助事業者は、補助事業年度の終了後3年間に於いて、毎会計年度終了後20日以内に当該補助事業に係る過去1年間の成果等について、様式第11号により、知事に報告しなければならない。

(成果発表等)

- 第18 知事は、補助金を交付した事業の補助事業名、補助事業者名、所在地、補助事業の成果等を公表することがある。

(その他)

- 第19 この要綱に定めるもののほか、本事業の実施等に関し必要な事項については、知事が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和7年12月22日から施行し、令和7年度予算に係る補助金に適用する。
- 2 この要綱は、次年度以降の各年度において、当該補助金に係る予算が成立した場合に、当該補助金にも適用するものとする。

別表 1（第 3 第 1 項関係）

補助対象設備（県内事業所において新設し、又は更新する以下の設備）
取引先が求める仕様・品質・生産量への対応、新分野への参入、新規顧客の開拓等を目的として、新設し、又は更新する生産性向上のための機械装置等（精密加工機、試験設備、品質保証設備等）

※ただし、過去に国及び県等から補助金を受けて整備し、処分制限期間を超えていない設備の更新は、対象となりません。

別表 2（第 3 第 2 項関係）

補助対象経費	内 容
設計費	事業に直接必要な機械装置等の設計費
設備費	事業に直接必要な機械装置等の購入等に要する経費
設置費	事業に直接必要な機械装置等の据え付け、既存設備の撤去、配管・配電等の工事に要する経費
その他経費	事業に直接必要なその他の経費

別表 3（第 4 第 1 項関係）

補助率	補助上限額	補助下限額
1／2 以内	1 5, 0 0 0 千円	2, 0 0 0 千円

別表 4（第 5 第 2 項関係）

補助金交付申請に関する提出書類	1 事業計画書（様式第 1 号別紙 1） 2 導入する設備のカタログ又は諸元表 3 補助事業実施予定場所の位置図、外観写真（既存設備を含む。） 4 導入設備の配置図 5 見積書（設計費、設備費、設置費、その他経費に関する見積書） 6 直近 3 か年の決算書類 7 暴力団排除に関する誓約書、役員名簿 8 県税納税証明書（発行から 3 か月以内に、全ての県税に未納がないこと） 9 登記簿謄本又は現在事項全部証明書（発行から 3 か月以内） 10 会社案内のパンフレット等（会社の概要が分かるもの） 11 その他知事が特に必要と認めるもの
-----------------	--

別表 5（第 1 2 第 2 項関係）

補助事業実績報告に関する提出書類	1 事業実績書（様式第 7 号別紙 1） 2 見積書、契約書又は発注請書、完了届（納品書）等、請求書等の写し 3 支払完了を証する書類の写し 4 知事が必要と認める書類（完成写真等）
------------------	--

別表 6（第 1 6 第 3 項関係）

知事が定める期間	減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和 4 0 年 3 月 3 1 日大蔵省令第 1 5 号）のとおりとする
----------	--